

安住寺だより

禅の心

第 1 3 9 号

発行 安住寺（年4回発行）
臨濟宗南禅寺派
大分県杵築市大字南杵築379
〒873-0002 TEL0978-62-2680
URL <http://www.anjyuji.net>
編集 矢野明玄
印刷 安住寺

平成24年 棚経日程			
八 月	9 日	木	宇佐市・片野・守江・新興・丸尾・茅場・志村
	10 日	金	藤ノ川全域・西大内山上・東大内山下
	11 日	土	東大内山中・東大内山上・西新町・古野・煙硝倉
	12 日	日	弓町・天満・西上・北台・札ノ辻・宗近 永代橋・西大内山浜・西大内山下
	1 3 日	月	安岐・国東・桃山・守末・中平・本庄・菊本・須賀 下司迫上・迫下
	14 日	火	日出町全域・杉山・錦江・南台・下原・下下司 中ノ原・鴨川
	15 日	水	大分市・別府市・魚町・谷町・本町・錦城・北浜
本年度は、上記日程にてお参りいたします。お昼に 初盆供養や仏事もありますので、時間のお約束はで きません。12～15日は三人、他は二人で参ります。 ご不在とかで、どうしても都合の悪い場合は連絡し て下さい。可能なかぎり、調整いたします。			

総責任役員
代一土谷岩同

責任役員
矢野玄徳

住職
矢野明玄

平成二十四年 盛夏

暑中お見舞い
申し上げます



お祝いごとの報告

玄徳閑栖和尚 春の褒章

私事ですが、本年春の褒章で藍綬褒章受章の榮譽に浴しました。保護司三十三年の功勞によるものです。支えてくれた家族や、ご理解を頂いた檀信徒の皆様にご感謝致します。

双子が誕生しました

明玄和尚・香織夫妻に

命名	
参男	次男
玄朗 ひろあき	玄武 ひろたけ

六月八日、双子の男児が生まれました。三男一女の賑やかな家族になりました。母子共に健康です。子育てで多少ご迷惑をお掛けしますが、ご理解下さいますようお願い致します。

施食会（おせがき）

八月三日（金）八時より

おとき 九時と十一時半より

お参りの方は、おときの時間を決めてお知らせして下さい。（地区世話人さん経由）

緑陰

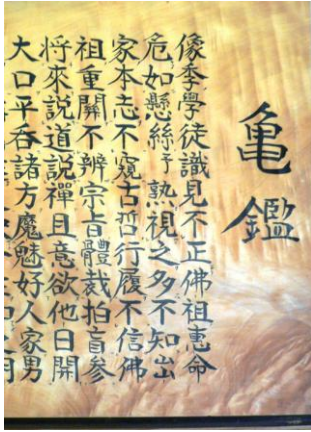
長雨のせいだろうか、今年
は蟬の発生が遅いように
ある。初鳴きは例年どおり
だったのに、まだニイニイ
蟬の声だけ。例年、観音堂
前の菩提樹の根元には無数
の穴が開くがまだゼロ。
日中は、木陰が一番。
十五度前後の地下水を
葉っぱの先まで送る。
その間を通り抜ける風
は涼しい。天然のクー
ラーだ。節電や原発の
話は聞こえて来ない。

坐禅「無想会」

平成二十四年に入りまして、当山では坐禅会を毎月二回、第二・第四土曜日の午前六時より行うようになりました。(冬季は六時半より)

一月、二月と底冷えの時期より、お盆を迎えようとするこの月まで、欠かさず参加いただいている方もおります。その中のお一人で、参加者中最年長の平野芳彦先生に、せっかくの坐禅会ですから、会に名前をつけてくださるようお願いしましたところ、無念無想の「無想会」と名づけて戴きました。平野先生は今年九十歳をお迎えですが、尚豊饒とし万歩計を腰に坐禅会にも歩いてご参加いただいております。参加者の皆さんも元気を頂いているようなことです。

新しい名を頂いて、益々参加者が増え、活気ある坐禅「無想会」になればと思っております。



参加者と共に坐っていると、坐禅修行の心構えである「亀鑑」を拝読している、管長猥下の言葉が思い浮かぶこ

とがあります。

「亀鑑・きかん」の亀(甲羅)は未来の吉兆を占い、鑑は現在の正邪を見分ける事である。そこから、手本、模範の意に用いられ、専門道場では根本規矩・訓戒の意味で用いられている。

昔は、修行中の休みで、師匠の元に帰ると「亀鑑を誦んじてみる」と言われ、言えなければ寺に上げて貰えないこともあったと言う。

坐禅会に参加される方にかかわらず、坐禅を知る一つの教えとして、紹介します。

像季の学徒識見正しからず、仏祖の恵命危うきこと懸絲の如し。

予つらつら之を視るに、多くは出家の本志知らず。古哲の行履窺がわず。仏祖の重関を信ぜず。宗旨の体裁を辯ぜず。拍盲に参じも来たつて、道と説き、禅と説く。

且つ意もうに、他日大口を開いて諸方を併呑し好人家の男女を魔魅し、名称高遠にして一生を慶快ならんと欲す。之に加うるに、胡乱に古人の古則公案を情解し、以って大事了畢と謂えり。

錯々、祖庭遙かに天涯を隔つ。是只、我見を増長するのみ。近代此の部に属するもの少なからず。我が門に入る者は切に忌む、他の弊風に効うことを。

真実に決定心を起こして、一切の是非得失に管せざれ。分に随い話頭を欄咬し、徹底脚跟練り得て退意を

生ぜざれ。驀に生死の根元を截断し、深く仏祖の骨髓に徹せよ。苟しくも少を得て足れりと為すこと勿れ。至嘱

この像法の時代、仏法を学ぶ者はその理解が正しくない。そのために仏祖の命であるこの教えは、細い糸のように切れてなくなってしまうような程に危うい。

この状況を見詰めるならば、その学徒の多くは世俗を断ち切ることの真の意味を知らず、祖師の言行を受け入れず、仏祖への悟りの道の険しきことを自覚せず、禅の根本に則した相應しい実践をしていない。誤解したまま、それを仏の教えであり、禅であると説いている。

そして、将来にはその誤った教えを広く世間に広め、未だ良心のある正しい目を持ち得る人々をも惑わし、自らの名譽を長く保ち一生を楽しく満足に過ごそうと思っている。更には先人達の言行録をいい加減に解釈した上に、それを以って成すべきを成したとしている。

間違いだ、間違いだ。仏祖の境涯は遙か彼方へと遠くなっている。これでは勝手な思い込みはひどくなる一方だ。現在こうした類のものは多い。我が道場で仏法を学ぶ者は、誤った見解、実践を断固厭離せねばならない。

まさに真の発心を起こして、一切の是非得失の柵に囚われてはならない。

い。自己の力量にあわせ、仏祖の言葉を頷くと共に理解し、自己の存在の根底まで探り尽し、中途で諦めてはならない。

さあ、生死の分別もすべて断ち切つて、仏祖が何を観、何をその身に具現化していたのか追体験せよ。くれぐれも視野の狭い理解のまま十分と思うな。

しっかりと受け継いでいけ。

最後の「驀に生死の根元を截断し、深く仏祖の骨髓に徹せよ。苟しくも少を得て足れりと為すこと勿れ。」は、舌鋒鋭くとても厳しい教えであります。禅の修業への取り組みは、このようであればならないと言うことが、お解りいただけるのではないでしょうか。

頓て死ぬけしきは見えず蟬の声

芭蕉

昨年のお盆の頃、今将に孵ろうとする蟬を発見。すかさずカメラを向ける。よく見ると何やら黒い帯。ムカデである。僅かしかない地上の命を輝かすことは無かった。「無常迅速 時不待人」である。



南院国師七百年遠諱 授戒会団参の旅

南禅寺の伽藍を創建された南院国師規菴祖圓禅師の七百年大遠諱が、本年四月一日より十一日まで、南禅寺で厳修されました。

これに伴って行われた遠諱授戒会に、安住寺からは八十名の授戒の申し込みがあり、四十名が参加しました。



お授戒を待つ参加者の皆さん。

大遠諱の詳細については、南禅誌に管長猊下をはじめ、宗務総長様、教学部長様、布教師の和尚様らが回顧されておりますのでお読みいただければと思います。



さて、授戒団参旅行には、安住寺より二十五名、大分県南禅寺派二十四部から総勢百人が参加。四月八日から十二日までの四泊五日、とても楽しく和やかな旅行でした。



八日、大分港ダイヤモンドフェリー乗り場を出発、翌九日平安神宮を参拝

後、お授戒に参加。その日は長浜にて宿泊。

翌日、金沢兼六園などを訪ね、芦原温泉まつや千千旅館に宿泊。親睦を兼ねた宴会では、カラオケで自慢のものを披露するなど、日頃見られない一面もお見受けすることが出来ました。

最終日、雨に見舞われ、東尋坊ではバスの中より絶壁を望むこととなりました。その後、まだ雪の残る永平寺をお参りし、皆さん無事に神戸港よりフェリーで帰路に着くことが出来ました。



授戒会団参の旅(芦原温泉まつや千千)

帰りのバスの中、「また親睦を深める旅行を企画しちよくれ」との声がありました。今回参加できなかった方も、違う機会にぜひご参加ください。

こんなこと始めました。

忙しい日々の中、場所を求め、自分を取り戻す。歴史ある説法を聴いて。

旅のひと

おひとり様1 [料金に含ま]

原則として7 ※ジャージなどおススメ!

コース 集合：杵築ふるさと産業館・観光案内所 10時集合

杵築ふるさと産業館(受付)各自移動 → 安住寺(座禅体験と説法)

05 お寺参詣 座禅体験コース

杵築市観光協会さんが、杵築に観光に来られる方に、限られた時間の中で杵築を満喫して欲しいとの想いで、「きつき発ミニツアー」と題し六つの周遊体験コースを設けることになりました。

その一つに、安住寺さんの坐禅体験を入れて欲しいとの要望で、「お寺参詣・坐禅体験コース」としてスタートすることになりました。

四十名近い小学校の父兄の申し込みなどを頂いています。広く門戸を開いて、微力ながら杵築のPRに協力しているところです。

また、七月二十七日には前回の安住寺便りでお知らせしました、東九州臨済宗青年僧の会による『寺子屋』が開催されることになっております。

次回便りにて報告いたします。



華甲之図 廣石碩田先生筆

九州北部豪雨のお見舞いを 申し上げます

気仙沼市の伊藤総務課長より、被災時の様子や復興に向けての課題・現状について説明を聞く。

市内中心部に打ち上げられた、第十八共徳丸の前で説明を聞く、杵築市市長連合会の一行



今年 初盆会 を迎える方々。

江藤アサコ殿	86歳	守末
高橋律子殿	79歳	大分市
藤原フジ子殿	79歳	煙硝倉市
麻生タツエ殿	99歳	別府市
廣石悦生殿	77歳	日出町
伊藤ミヤ子殿	88歳	大分市
政池一子殿	96歳	北九州市
河野永子殿	34歳	東下司橋
田泓ツヤ殿	84歳	永代台
諸富定子殿	84歳	北下司
高橋清殿	63歳	西下司
廣石清一殿	89歳	東大内山
廣石タミ殿	86歳	錦江市
宗田菊次殿	93歳	大分市
宇都宮幸子殿	57歳	宗近
江口テル子殿	91歳	東大内山
江藤チエ子殿	84歳	魚町
高木花子殿	97歳	西大内山
古田稔殿	92歳	相模原市
須賀カズエ殿	97歳	京都郡
小田原國男殿	83歳	横須賀市
今村吉枝殿	97歳	別府市
大藤成夫殿	75歳	
【昨年済まされましたが寺報に未掲載でした】		
麻生清殿	97歳	藤ノ川

謹んでお知らせし、皆様と共に、ご冥福をお祈り申し上げます。



南三陸町・防災対策庁舎の変わり果てた姿

杵築市区長連合会の視察
二度目の被災地訪問

災害と被災者のことは忘れない

去る七月五日より二度目の被災地を訪問しました。被災地は、奇麗に片付けられていましたが、うず高く積み上げられたガレキの脇では、重機を使いながら最期の段階は、人手で細分別をしていました。復興には程遠い感じが致しました。

護持会費 墓地管理料のお願い

七、八月は、会費と境内墓地の管理料の納付時期となっています。よろしくお願い致します。

行事予定

八月中・写経・坐禅・詠歌休み
九月七日・ご詠歌
九月十八日・ご詠歌・観音講
九月二十一日・写経
九月下旬・敬老会
坐禅会 毎月第二・第四土曜
観音講は午後一時から、写経・坐禅会と同様に、どなたでも参加できます。都合により変更する場合もありますのでお問い合わせ下さい。